

3. 履修の手引き

3. 履修の手引き

3. 1 授業実施に関する事項

1) 学期

授業の実施は1年間を「前期」と「後期」の2期に分けて行います。各学期の予定は、「学年歴」を参照してください。

2) 授業時間

一時限の授業時間を90分として、次の表に従って授業を実施しています。

時 限	1	2	3	4	5
開 始	9 : 0 0	1 0 : 4 0	1 3 : 0 0	1 4 : 4 0	1 6 : 2 0
終 了	1 0 : 3 0	1 2 : 1 0	1 4 : 3 0	1 6 : 1 0	1 7 : 5 0

3) 各種必要事項の伝達方法

授業に関する必要事項は、全てA棟1階屋外掲示板及び事務室カウンター前掲示板にてお知らせします。また、必要に応じて大学ホームページ内学内掲示板においてもお知らせします。

掲示物の見落としによる不利益については、学生個人の責任となりますので、必ず1日1回以上掲示板を見るよう習慣づけてください。

なお、電話による各種問い合わせには、内容により対応します。

主に下記事項について、お知らせします。

- ・ 各種手続きに関する情報（手続方法・期間 等）
- ・ 授業の開講に関する情報（休講、補講実施、時限変更 等）
- ・ 試験に関する情報（試験日程、試験課題 等）

4) 休講

天候や大学の都合により、授業を休講（休み）にすることがあります。休講についてのお知らせは、「3）各種必要事項の伝達方法」のとおり対応します。

◆ 授業科目個別の休講

担当教員の都合や授業実施に係る調整などにより各授業科目個別に休講が生じた場合は、原則として学内の掲示板にてお知らせします。なお、必要に応じて本学ホームページにおいてもお知らせします。

◆ 天候等により通学が困難となったときの全学的な休講

次の場合において、公共交通機関の一部が運休となり、または自動車等による通学が著しく困難となったときは、その状況に合わせて全学的に休講することがあります。当該休講は、本学ホームページにてお知らせします。

- | |
|---|
| <p>① 山梨県下において大雨、暴風、暴風雪若しくは大雪の特別警報又は大雨、洪水、暴風、暴風雪若しくは大雪の警報が発令されたとき。</p> <p>② 山梨県下において地震その他の自然現象に起因する災害等が発生したとき。</p> |
|---|

等

※ 1 学生間のうわさ等で判断せず、不明確な場合は事務室窓口にお問い合わせください。

※ 2 当日の連絡も多いので注意してください。

5) 補講

授業が休講になった場合は、休講分の授業を補うため補講を行います。また、授業の進行上の都合によっても補講を行う場合があります。補講の実施については、「3) 各種必要事項の伝達方法」のとおり掲示板にて行います。

6) 閉講

履修者少数又は教育課程の変更等により当該年度に授業科目を開講することが困難であると判断した場合は、閉講することがあります。

7) 授業の出席基準

授業は、全ての回に出席することが前提です。出席回数が総授業回数の3分の2（科目名に演習又は実習を含む授業科目については5分の4）に満たない場合は、当該授業科目の履修を放棄したものとみなし、試験の受験資格を失います。したがって、当該授業科目の試験を受験できないため、単位も修得できませんので注意してください。

8) 欠席等の取り扱い

(1) 遅刻

病気、その他の理由により授業を遅刻する場合は、授業開始20分まで出席として認められます。遅刻した者の出席は、当該回の出席を0.5回として計算します。

(2) 早退

病気、その他の理由により授業を早退する場合は、当該授業科目の担当教員に申し出てください。早退した者の出席は、当該回の出席を0.5回として計算します。ただし、授業の出席時間が45分に満たない場合は欠席扱いとします。

(3) 1週間以上の欠席

病気、その他の理由により授業を1週間以上欠席する場合は、事前又は事後1週間以内に「欠席届」に必要事項を記入の上、事務室窓口に提出してください。

(4) 公欠となる欠席

公欠とは、授業を欠席、遅刻又は早退をしたものと取り扱わないことをいいます。

次の理由により授業を欠席、遅刻又は早退し所定の手続を経た者は、公欠として取り扱います。この場合、授業の欠席日数には含めませんが、公欠を含めた欠席回数が総授業回数の3分の1（科目名に演習・実習を含む授業科目は5分の1）を超えた場合は補習を行います。

手続きについては、事前又は事後 1 週間以内に「公欠願」に必要事項を記入の上、各必要書類を添えて事務室窓口へ提出してください。

【公欠となる欠席等の理由】

① 学校保健安全法施行規則第 18 条に規定する感染症の罹患

申請に必要な書類：罹患証明書*（本学指定様式）又は医師の診断書

※ 罹患証明書の様式は、本学ホームページの下記場所からダウンロードできます。

大学 HP > キャンパスライフ > 学生生活 > 保健室

認められる欠席日数：学校保健安全法施行規則第 19 条に規定する出席停止の期間

（主な感染症）

- ◇第一種
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MER S コロナウイルスであるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）第六条第三項第六号に規定する特定鳥インフルエンザ）
- ◇第二種
インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く。）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎
- ◇第三種
コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症
- ◇その他
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第七項から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症

② 公共交通機関の遅延

申請に必要な書類：当該交通機関の発行する遅延証明書

認められる欠席日数：欠席した当該授業の回

③ 天災またはその他災害による被害

申請に必要な書類：官公庁による被災証明書

認められる欠席日数：被害を受けた日から授業の出席が見込める日まで

④ 親族の死亡または危篤

申請に必要な書類：保護者・保証人等による証明書

認められる欠席日数：配偶者 10 日以内

父母・子 7 日以内

祖父母・孫・兄弟姉妹 3 日以内

曾祖父母・曾孫・伯叔父母・甥姪 1 日以内

（※）移動に伴い授業に出席することが困難である場合は、上記の日数に片道 1 日を限度に移動に要する日数を加えることができます。この場合は、上記必要書類に加えて移動が必要な理由を証明する書類を提出してください。

⑤ 就職試験の受験

申請に必要な書類：就職試験を証明するもの

認められる欠席日数：当該就職試験が実施される日数

（※）移動に伴い授業に出席することが困難である場合は、上記の日数に片道 1 日を限度に移動に要する日数を加えることができます。この場合は、上記必要書類に加えて移動が必要な理由を証明する書類を提出してください。

⑥ 本学が認める諸行事への参加

申請に必要な書類：依頼書 等

認められる欠席日数：本学が認める日数

〈主な行事〉

- | | |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none">・全国レベルの大会等に参加する課外活動・学外において行われる各種行事・援助活動 | など |
|---|----|

⑦ ①から⑥のほか本学が認めるもの

申請に必要な書類：欠席等の理由を証明する書類

認められる欠席日数：本学が認める日数

9) オフィスアワー

健康科学部では、学生からの授業内容等の質問や各種相談に応じる「オフィスアワー」の時間を設けています。各教員のオフィスアワーの時間帯は、シラバスを参照してください。

10) 授業中における注意事項

次の事項に注意してください。

- ① 授業中の私語は慎んでください。
- ② 授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止します。また、音が鳴らないように電源を切る若しくはマナーモードに設定するなどしてください。
- ③ 無断で教室を退室しないでください。

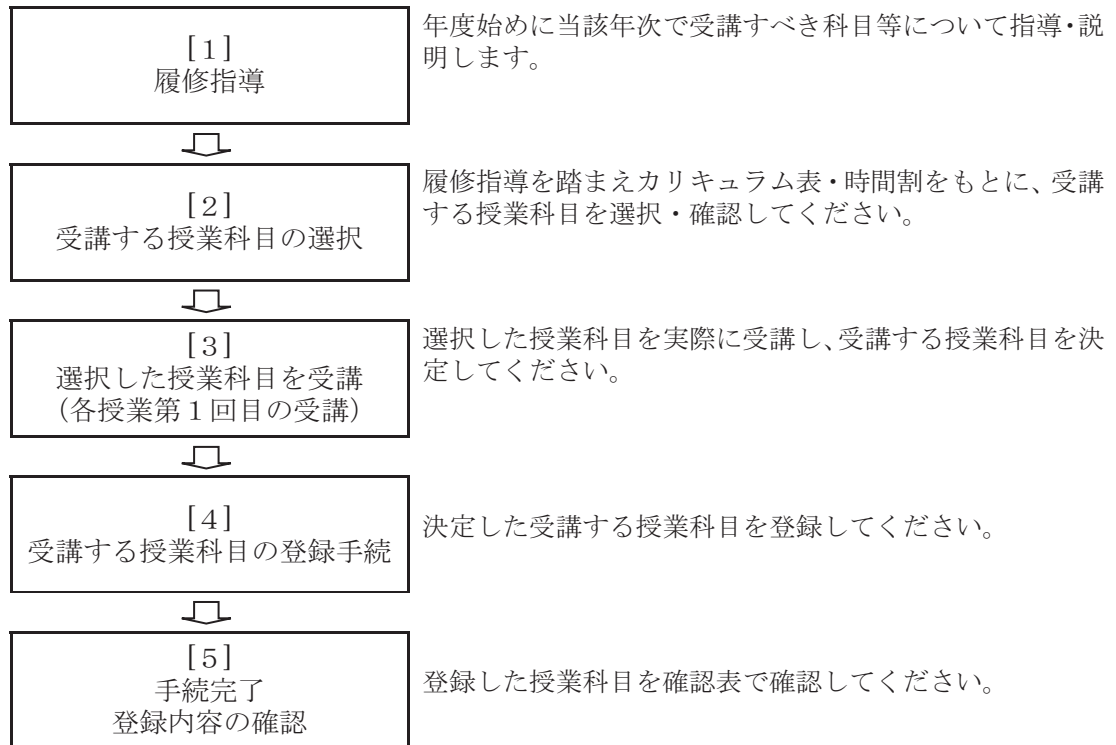
3. 2 授業科目の履修

1) 履修登録の方法

(1) 履修登録とは

履修登録とは、受講する授業科目を登録することです。登録することにより、授業科目を受講することができます。(注：登録をしない授業科目は受講することができません。)

(2) 履修登録の流れ



(3) 履修放棄

履修登録した授業科目について、出席回数が総授業回数の3分の2（科目名に演習又は実習を含む授業科目については5分の4）に満たない場合は、その授業科目の履修を放棄したものとみなされます。

履修登録した授業科目を自ら放棄する場合は、試験の受験資格を満たしている場合に限り、当該授業科目の定期試験日の前日までであれば履修の放棄を申し出ることができます。

(4) 履修取消

履修登録した授業科目のうち選択科目については、所定の手続きを経ることにより履修の取消を認めることがあります。履修の取消が認められた授業科目は、当初から履修手続きをしなかったものとして取り扱われます。ただし、履修放棄の基準に達した授業科目については、履修の取消は認められませんので、履修放棄とみなされる前に手続きを行うように注意してください。

2) 履修要件

(1) 授業科目

各学科における授業科目は、P16～51の表のとおりです。

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

(2) 必修・選択の別

各授業科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」の3種類に分けられます。
それぞれの説明は次のとおりです。

科目の種類	説 明
必修科目	必ず履修しなければならない授業科目です。
選択必修科目	当該授業科目のうち授業科目の区分ごとに定められた単位数分の授業科目を選択し履修しなければならない授業科目です。 (区分別に履修要件が定められているものもあります。)
選択科目	任意に選択して履修することができる授業科目です。

(3) 配当年次

各授業科目には、それぞれ受講が望ましい年次「配当年次」が設定されます。
原則として表示されている数字以上の年次で受講することができます。

【例】

科目名	配当年次	単位数		
		必修	選択必修	選択
臨床人間学スタディーズ	2・3		2	

2年次以上の学生が履修することができます。(4年次の学生も履修可能)

(4) 履修登録の制限 (CAP制)

学生が各年次にあわせて適切に授業科目を履修し、予習や復習など授業以外の自学自習の時間を確保できるように、1年間に履修登録できる授業科目の数を次の表のとおり単位で制限しています。

学 期	単位数
前 期	24単位まで
後 期	24単位まで
年 間	48単位まで

(5) 他学科授業科目の受講

他学科で開講される授業科目の受講については、担当教員の許可を受けた上で受講してください。なお、卒業に必要な単位としては、16単位まで認めることができます。

3) 履修モデル (参考例)

履修登録の参考とするための履修モデルを示します。本履修モデルは、あくまでも参考例であり、課程修了のための最小限の履修単位数を示しています。履修登録上限単位数(年間48単位)の範囲内で積極的に履修してください。

(1) リハビリテーション学科 理学療法学コース／理学療法学科

i リハビリテーション学科 理学療法学コース 2023年度以降入学生適用

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1) 情報リテラシー(1) 基礎数学演習(1) 物理基礎(1) 化学基礎(1) 統計学(2) 健康科学論(1) 人間関係論(1) 英語Ⅰ－1(1) 英語Ⅰ－2(1) 外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から10単位分の授業科目を選んで履修)	解剖学Ⅰ(2) 解剖学Ⅱ(2) 解剖学実習(1) 生理学(2) 生理学演習(2) 運動学Ⅰ(2) 運動学Ⅱ(2) 人間発達学(2) 病理学(1) 理学療法概論(2) 理学療法演習Ⅰ－1(1) 理学療法演習Ⅰ－2(1) 見学実習(1) (必要に応じて選択科目を履修)
2年次	英語Ⅱ－1(1) 英語Ⅱ－2(1) (必要に応じて選択科目を履修)	生理学実習(1) 運動学実習(1) 薬学(1) 栄養学(2) 臨床医学総論(1) 整形外科学(2) 神経内科学(2) 小児科学(1) 内科学(2) 精神医学(2) リハビリテーション医学(1) 就労支援サービス(2) 専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 運動解剖学(2) 臨床運動学(2) 理学療法評価学(2) 理学療法評価学実習(1) 理学療法演習Ⅱ－1(1) 理学療法演習Ⅱ－2(1) 運動器系理学療法評価学演習(1) 神経系理学療法評価学演習(1) 内部障害系理学療法評価学演習(1) 義肢装具学(2) 日常生活活動学(2) 地域理学療法学実習(1) 地域理学療法学(2) 検査測定実習(1) (必要に応じて選択科目を履修)
3年次	(必要に応じて選択科目を履修)	理学療法研究法(1) 理学療法管理学(2) クリニカルリーズニング(1) 理学療法治療学(2) 運動療法学(2) 理学療法演習Ⅲ(1) 運動器系理学療法学実習(1) 神経系理学療法学実習(1) 内部障害系理学療法学実習(1) 日常生活活動学実習(1) 義肢装具学実習(1) 物理療法学(2) 小児理学療法学(2) 予防理学療法学(1) 評価実習(6) (この他に選択科目から5単位分の授業科目を選んで履修)
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 理学療法演習Ⅳ(1) 理学療法特論(2) 総合臨床実習(11) (必要に応じて選択科目を履修)

※ () 内の数字は単位数を表す。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目領域			専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	12単位	1単位	10単位	21単位	—	—	44単位
2年次	2単位	—	—	43単位	1単位	—	46単位
3年次	—	—	—	20単位	—	5単位	25単位
4年次	—	—	—	15単位	—	—	15単位
合計	14単位	1単位	10単位	99単位	1単位	5単位	130単位

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

ii 理学療法学科 2020年度から2022年度入学生適用

年次	総合基礎科目領域		専門科目領域	
1 年 次	基礎演習Ⅰ(1) 情報リテラシー(1) 物理基礎(1) 統計学(2) 人間関係論(1)	基礎演習Ⅱ(1) 基礎数学演習(1) 化学基礎(1) 健康科学論(1)	解剖学Ⅰ(2) 解剖学実習(1) 生理学演習(2) 運動学Ⅱ(2) 病理学(1)	解剖学Ⅱ(2) 生理学(2) 運動学Ⅰ(2) 人間発達学(2)
	英語Ⅰ－Ⅰ(1)	英語Ⅰ－Ⅱ(1)	理学療法概論(2) 理学療法演習Ⅰ－Ⅱ(1)	理学療法演習Ⅰ－Ⅰ(1) 見学実習(1)
	外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から10単位分の授業科目を選んで履修)		(必要に応じて選択科目を履修)	
2 年 次	英語Ⅱ－Ⅰ(1)	英語Ⅱ－Ⅱ(1)	生理学実習(1) 薬学(1) 臨床医学総論(1) 神経内科学(2) 内科学(2) リハビリテーション医学(1)	運動学実習(1) 栄養学(2) 整形外科学(2) 小児科学(1) 精神医学(2) 就労支援サービス(2)
	(必要に応じて選択科目を履修)		専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 運動解剖学(2) 臨床運動学(2) 理学療法評価学(2) 理学療法評価学実習(1) 理学療法演習Ⅱ－Ⅰ(1) 理学療法演習Ⅱ－Ⅱ(1) 運動器系理学療法評価学演習(1) 神経系理学療法評価学演習(1) 内部障害系理学療法評価学演習(1) クリニカルリーディング(1) 理学療法治療学(2) 運動療法学(2) 日常生活活動学(2) 義肢装具学(2) 地域理学療法学(2) 地域理学療法学実習(1) 検査測定実習(1) (必要に応じて選択科目を履修)	
3 年 次	(必要に応じて選択科目を履修)		理学療法研究法(1) 理学療法演習Ⅲ(1) 神経系理学療法学実習(1) 日常生活活動学実習(1) 物理療法学(2) 予防理学療法学(1)	理学療法管理学(2) 運動器系理学療法学実習(1) 内部障害系理学療法学実習(1) 義肢装具学実習(1) 小児理学療法学(2) 評価実習(6)
			(この他に選択科目から5単位分の授業科目を選んで履修)	
4 年 次	(必要に応じて選択科目を履修)		チーム医療演習(1) 理学療法特論(2)	理学療法演習Ⅳ(1) 総合臨床実習(11)
			(必要に応じて選択科目を履修)	

※ () 内の数字は単位数を表す。

「単位の内訳」

年 次	総合基礎科目領域			専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	12 単位	1 単位	10 単位	21 単位	—	—	44 単位
2年次	2 単位	—	—	43 単位	1 単位	—	46 単位
3年次	—	—	—	20 単位	—	5 単位	25 単位
4年次	—	—	—	15 単位	—	—	15 単位
合 計	14 単位	1 単位	10 単位	99 単位	1 単位	5 単位	130 単位

iii 理学療法学科 2016年度から2019年度入学生適用

年次	総合基礎科目領域		専門科目領域	
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 統計学(2) 心理学(2)	基礎演習Ⅱ(1) 生活と物理(2) 健康とリハビリテーション(2)	解剖学Ⅰ(2) 生理学(2) 運動学Ⅰ(2) 運動生理学(2) 病理学(2)	解剖学実習(1) 生理学演習(2) 運動学Ⅱ(2) 人間発達学(2) 臨床医学総論(1)
	英語Ⅰ－1(1)	英語Ⅰ－2(1)	理学療法演習Ⅰ－1(1) 理学療法概論(2)	理学療法演習Ⅰ－2(1) 臨床実習Ⅰ(1)
	外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から3単位分の授業科目を選んで履修)		(必要に応じて選択科目を履修)	
2年次	英語Ⅱ－1(1)	英語Ⅱ－2(1)	解剖学Ⅱ(2) 運動学実習(1) 内科学(2) 小児科学(1) 精神医学Ⅰ(2)	生理学実習(1) 整形外科学(2) 神経内科学(2) リハビリテーション医学(1)
	(この他に選択科目から3単位分の授業科目を選んで履修)		理学療法演習Ⅱ－1(1) 理学療法診断学(2) 理学療法評価学実習(1) 運動解剖学(2)	理学療法演習Ⅱ－2(1) 理学療法評価学(2) 運動療法学(2) 臨床実習Ⅱ(2)
	(この他に選択科目から7単位分の授業科目を選んで履修)		(この他に選択科目から7単位分の授業科目を選んで履修)	
3年次	(選択科目から4単位分の授業科目を選んで履修)		理学療法演習Ⅲ－1(1) 物理療法学(1) 内部障害系理学療法学実習(1) 義肢装具学実習(1) 運動器系理学療法学(2) 神経系理学療法学(2) 日常生活活動学(2) 臨床運動学(2) 高齢者理学療法学(1) 臨床実習Ⅲ(5)	理学療法演習Ⅲ－2(1) 内部障害系理学療法学(2) 義肢装具学(2) 理学療法治療学(2) 運動器系理学療法学実習(1) 神経系理学療法学実習(1) 日常生活活動学実習(1) 理学療法マネジメント(1) 地域理学療法学(1)
	(この他に選択科目から5単位分の授業科目を選んで履修)		(この他に選択科目から5単位分の授業科目を選んで履修)	
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)		理学療法特論(2) 臨床実習Ⅳ(10)	理学療法演習Ⅳ(1)
	(必要に応じて選択科目を履修)		(必要に応じて選択科目を履修)	

※ () 内の数字は単位数を表す。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目領域			専門科目領域		計
	必修	選択必修	選択	必修	選択	
1年次	12単位	1単位	3単位	23単位	—	39単位
2年次	2単位	—	3単位	27単位	7単位	39単位
3年次	—	—	4単位	30単位	5単位	39単位
4年次	—	—	—	13単位	—	13単位
合計	14単位	1単位	10単位	93単位	12単位	130単位

Ⅱ 健康科学部 [3. 履修の手引き]

(2) リハビリテーション学科 作業療法学コース／作業療法学科

i リハビリテーション学科 作業療法学コース 2024年度以降入学生適用

年次	総合基礎科目領域		専門科目領域	
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 情報リテラシー(1) 物理基礎(1) 統計学(2) 人間関係論(1)	基礎演習Ⅱ(1) 基礎数学演習(1) 化学基礎(1) 健康科学論(1)	解剖学Ⅰ(2) 解剖学実習(1) 生理学演習(2) 運動学Ⅱ(2) 病理学(1)	解剖学Ⅱ(2) 生理学(2) 運動学Ⅰ(2) 人間発達学(2)
	英語Ⅰ－1(1)	英語Ⅰ－2(1)	作業療法概論(2) 作業療法評価学(2)	基礎作業学(2) 臨床実習Ⅰ(見学実習)(1)
	外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から10単位分の授業科目を選んで履修)		(必要に応じて選択科目を履修)	
2年次	英語Ⅱ－1(1)	英語Ⅱ－2(1)	生理学実習(1) 運動学実習(1) 薬学(1) 臨床医学総論(1) 神経内科学(2) 内科学(2) リハビリテーション医学(1) 神経心理学(2)	栄養学(2) 整形外科(2) 小児科学(1) 精神医学(2) 就労支援サービス(2)
	(必要に応じて選択科目を履修)		専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 作業療法演習Ⅰ-1(1) 身体作業療法評価学演習(2) 発達作業療法評価学演習(1) 作業療法演習Ⅰ-2(1) 精神障害作業療法治療学(2)	研究法概論(1) 精神作業療法評価学演習(2) 日常生活評価学演習(1) 身体障害作業療法治療学(2)
	(必要に応じて選択科目を履修)		(必要に応じて選択科目を履修)	
3年次	(必要に応じて選択科目を履修)		基礎作業学演習(1) 老年期作業療法学(2) 高次脳機能障害治療学(2) 精神障害作業療法治療学演習(2) 作業療法演習Ⅱ-1(1) 義肢装具学(2) 地域作業療法学(2) 臨床実習Ⅲ(評価実習)(5)	作業療法管理学(2) 発達障害作業療法治療学演習(1) 身体障害作業療法治療学演習(2) 日常生活活動学演習(1) 作業療法演習Ⅱ-2(1) 地域生活支援学(2) 臨床実習Ⅱ(地域実習)(1)
	(必要に応じて選択科目を履修)		(この他に選択科目から1単位分の授業科目を選んで履修)	
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)		チーム医療演習(1)	
	(必要に応じて選択科目を履修)		作業療法学特論(1) 臨床実習Ⅴ(総合実習)(9)	臨床実習Ⅳ(総合実習)(9)
	(必要に応じて選択科目を履修)		(必要に応じて選択科目を履修)	

※ () 内の数字は単位数を表す。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目			専門科目			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	12単位	1単位	10単位	19単位	—	—	42単位
2年次	2単位	—	—	37単位	1単位	—	40単位
3年次	—	—	—	27単位	—	1単位	28単位
4年次	—	—	—	20単位	—	—	20単位
合計	14単位	1単位	10単位	103単位	1単位	1単位	130単位

ii リハビリテーション学科 作業療法学コース 2023年度入学生適用

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1) 情報リテラシー(1) 基礎数学演習(1) 物理基礎(1) 化学基礎(1) 統計学(2) 健康科学論(1) 人間関係論(1) 英語Ⅰ－1(1) 英語Ⅰ－2(1) 外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から10単位分の授業科目を選んで履修)	解剖学Ⅰ(2) 解剖学Ⅱ(2) 解剖学実習(1) 生理学(2) 生理学演習(2) 運動学Ⅰ(2) 病理学(1) 作業療法概論(2) 基礎作業学(2) 作業療法評価学(2) 臨床実習Ⅰ(見学実習)(1) (必要に応じて選択科目を履修)
2年次	英語Ⅱ－1(1) 英語Ⅱ－2(1) (必要に応じて選択科目を履修)	生理学実習(1) 運動学Ⅱ(2) 運動学実習(1) 人間発達学(2) 薬学(1) 栄養学(2) 臨床医学総論(1) 整形外科学(2) 神経内科学(2) 小児科学(1) 内科学(2) 精神医学(2) リハビリテーション医学(1) 就労支援サービス(2) 神経心理学(2) 専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 作業療法演習Ⅰ-1(1) 研究法概論(1) 身体作業療法評価学演習(2) 精神作業療法評価学演習(2) 発達作業療法評価学演習(1) 日常生活評価学演習(1) 作業療法演習Ⅰ-2(1) 身体障害作業療法治療学(2) 精神障害作業療法治療学(2) (必要に応じて選択科目を履修)
3年次	(必要に応じて選択科目を履修)	基礎作業学演習(1) 作業療法管理学(2) 老年期作業療法学(2) 発達障害作業療法治療学演習(1) 高次脳機能障害治療学(2) 身体障害作業療法治療学演習(2) 精神障害作業療法治療学演習(2) 日常生活活動学演習(1) 作業療法演習Ⅱ-1(1) 作業療法演習Ⅱ-2(1) 義肢装具学(2) 地域生活支援学(2) 地域作業療法学(2) 臨床実習Ⅱ(地域実習)(1) 臨床実習Ⅲ(評価実習)(5) (この他に選択科目から1単位分の授業科目を選んで履修)
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 作業療法学特論(1) 臨床実習Ⅳ(総合実習)(9) 臨床実習Ⅴ(総合実習)(9) (必要に応じて選択科目を履修)

※ () 内の数字は単位数を表す。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目			専門科目			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	12単位	1単位	10単位	19単位	—	—	42単位
2年次	2単位	—	—	37単位	1単位	—	40単位
3年次	—	—	—	27単位	—	1単位	28単位
4年次	—	—	—	20単位	—	—	20単位
合計	14単位	1単位	10単位	103単位	1単位	1単位	130単位

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

iii 作業療法学 2020年度から2022年度入学生適用

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
1 年 次	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1) 情報リテラシー(1) 基礎数学演習(1) 物理基礎(1) 化学基礎(1) 統計学(2) 健康科学論(1) 人間関係論(1) 英語Ⅰ－1(1) 英語Ⅰ－2(1) 外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から10単位分の授業科目を選んで履修)	解剖学Ⅰ(2) 解剖学Ⅱ(2) 解剖学実習(1) 生理学(2) 生理学演習(2) 運動学Ⅰ(2) 病理学(1) 作業療法概論(2) 基礎作業学(2) 作業療法評価学(2) 臨床実習Ⅰ(見学実習)(1) (必要に応じて選択科目を履修)
2 年 次	英語Ⅱ－1(1) 英語Ⅱ－2(1) (必要に応じて選択科目を履修)	生理学実習(1) 運動学Ⅱ(2) 運動学実習(1) 人間発達学(2) 薬学(1) 栄養学(2) 臨床医学総論(1) 整形外科学(2) 神経内科学(2) 小児科学(1) 内科学(2) 精神医学(2) リハビリテーション医学(1) 就労支援サービス(2) 神経心理学(2) 専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 作業療法演習Ⅰ-1(1) 研究法概論(1) 身体作業療法評価学演習(2) 精神作業療法評価学演習(2) 発達作業療法評価学演習(1) 日常生活評価学演習(1) 作業療法演習Ⅰ-2(1) 身体障害作業療法治療学(2) 精神障害作業療法治療学(2) (必要に応じて選択科目を履修)
3 年 次	(必要に応じて選択科目を履修)	基礎作業学演習(1) 作業療法管理学(2) 老年期作業療法学(2) 発達障害作業療法治療学演習(1) 高次脳機能障害治療学(2) 身体障害作業療法治療学演習(2) 精神障害作業療法治療学演習(2) 日常生活活動学演習(1) 作業療法演習Ⅱ-1(1) 作業療法演習Ⅱ-2(1) 義肢装具学(2) 地域生活支援学(2) 地域作業療法学(2) 臨床実習Ⅱ(地域実習)(1) 臨床実習Ⅲ(評価実習)(5) (この他に選択科目から1単位分の授業科目を選んで履修)
4 年 次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 作業療法学特論(1) 臨床実習Ⅳ(総合実習)(9) 臨床実習Ⅴ(総合実習)(9) (必要に応じて選択科目を履修)

※ () 内の数字は単位数を表す。

「単位の内訳」

年 次	総合基礎科目			専門科目			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1 年次	12 単位	1 単位	10 単位	19 単位	—	—	42 単位
2 年次	2 単位	—	—	37 単位	1 単位	—	40 単位
3 年次	—	—	—	27 単位	—	1 単位	28 単位
4 年次	—	—	—	20 単位	—	—	20 単位
合 計	14 単位	1 単位	10 単位	103 単位	1 単位	1 単位	130 単位

(3) 人間コミュニケーション学科／福祉心理学科

i 人間コミュニケーション学科 入学生・転学科生・編入学生適用

①入学生・転学科生適用

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1) 情報リテラシー(1) 心理学と心理的支援(心理学概論)(2) 健康科学論(1) 発達心理学(2) 人間関係論(1) コミュニケーション論(1) 英語Ⅰ－1(1) 英語Ⅰ－2(1) 人間基礎科目群中、選択必修科目から1科目を選択 外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から9単位分の授業科目を選んで履修)	社会福祉雄原理と政策a(2) 社会学と社会システム(2) 臨床心理学概論(2) 社会・集団・家族心理学(2) 医学概論(人体の構造と機能及び疾病)(2) 学習・言語心理学(2) 福祉心理学基盤演習Ⅰ(1) 福祉心理学基盤演習Ⅱ(1) 専門基礎科目群基礎医学系、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から2単位分の授業科目を選んで履修)
2年次	英語Ⅱ－1(1) 英語Ⅱ－2(1) (必要に応じて選択科目を履修)	精神医学と精神医療A(精神疾患とその治療Ⅰ)(2) 障害者福祉(2) 神経・生理心理学(2) 社会福祉調査の基礎(2) 感情・人格心理学(2) 福祉心理学基盤演習Ⅲ(2) 福祉心理学基盤演習Ⅳ(2) 専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から24単位分の授業科目を選んで履修)
3年次	(必要に応じて選択科目を履修)	精神医学と精神医療B(精神疾患とその治療Ⅱ)(2) 社会保障a(2) 社会保障b(2) 福祉心理学専門演習Ⅰ(2) 福祉心理学専門演習Ⅱ(2) (この他に選択科目から30単位分の授業科目を選んで履修)
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 福祉心理学専門演習Ⅲ(2) 福祉心理学専門演習Ⅳ(2) (この他に選択科目から4単位分の授業科目を選んで履修)

※ () 内の数字は単位数を表す。

※ 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の受験資格を目指す場合は、P78・80・82に示す授業科目を履修し単位を修得する必要があります。

※ 転学科生については、転学科年次により各自の修得科目及び単位に応じて適宜履修してください。

※ 2年次転学科生については、専門科目領域 福祉心理学基盤演習Ⅰおよび福祉心理学基盤演習Ⅱは履修する必要はありません。

※ 3年次転学科生については、専門科目領域 福祉心理学基盤演習Ⅰ、福祉心理学基盤演習Ⅱ、福祉心理学基盤演習Ⅲおよび福祉心理学基盤演習Ⅳは履修する必要はありません。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目領域			専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	12単位	2単位	9単位	14単位	1単位	2単位	40単位
2年次	2単位	—	—	14単位	1単位	24単位	41単位
3年次	—	—	—	10単位	—	30単位	40単位
4年次	—	—	—	5単位	—	4単位	9単位
合計	14単位	2単位	9単位	43単位	2単位	60単位	130単位

Ⅱ 健康科学部 [3. 履修の手引き]

②編入学生適用

※ 単位認定において総合基礎科目領域 18 単位、専門科目領域 30 単位が認められた場合。

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
3 年次	心理学と心理的支援(心理学概論)(2) 健康科学論(1) 発達心理学(2) 人間基礎科目群中、選択必修科目から 1 科目を選択 (この他に選択科目から 1 単位分の授業科目を選んで履修)	精神医学と精神医療 A (精神疾患とその治療 1)(2) 社会福祉雄原理と政策 a (2) 社会学と社会システム(2) 障害者福祉(2) 臨床心理学概論(2) 医学概論(人体の構造と機能及び疾病)(2) 社会福祉調査の基礎(2) 精神医学と精神医療 B (精神疾患とその治療 2)(2) 福祉心理学専門演習Ⅱ(2) 福祉心理学専門演習Ⅰ(2) (この他に選択科目から 21 単位分の授業科目を選んで履修)
4 年次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 福祉心理学専門演習Ⅲ(2) 福祉心理学専門演習Ⅳ(2) (この他に選択科目から 29 単位分の授業科目を選んで履修)

※ () 内の数字は単位数を表す。

※ 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の受験資格を目指す場合は、P78・80・82 に示す授業科目を履修し単位を修得する必要があります。

「単位の内訳」

年 次	総合基礎科目領域				専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	認定	必修	選択	認定	
—	—	—	—	18 単位	—	—	30 単位	48 単位
3 年次	5 単位	1 単位	1 単位	—	20 単位	21 単位	—	48 単位
4 年次	—	—	—	—	5 単位	29 単位	—	34 単位
合 計	5 単位	1 単位	1 単位	18 単位	25 単位	50 単位	30 単位	130 単位

ii 福祉心理学科 2021年度入学生・1年次転学科生/2022年度2年次転学科生/2023年度3年次転学科生適用

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1) 情報リテラシー(1) 心理学と心理的支援(心理学概論)(2) 健康科学論(1) 発達心理学(2) 人間関係論(1) 英語Ⅰ－1(1) 英語Ⅰ－2(1) 外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から11単位分の授業科目を選んで履修)	社会福祉雄原理と政策a(2) 社会学と社会システム(2) 臨床心理学概論(2) 社会・集団・家族心理学(2) 医学概論(人体の構造と機能及び疾病)(2) 学習・言語心理学(2) 福祉心理学基盤演習Ⅰ(1) 福祉心理学基盤演習Ⅱ(1) (この他に選択科目から3単位分の授業科目を選んで履修)
2年次	英語Ⅱ－1(1) 英語Ⅱ－2(1) (必要に応じて選択科目を履修)	精神医学と精神医療A(精神疾患とその治療Ⅰ)(2) 障害者福祉(2) 神経・生理心理学(2) 社会福祉調査の基礎(2) 感情・人格心理学(2) 福祉心理学基盤演習Ⅲ(2) 福祉心理学基盤演習Ⅳ(2) 専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から24単位分の授業科目を選んで履修)
3年次	(必要に応じて選択科目を履修)	精神医学と精神医療B(精神疾患とその治療Ⅱ)(2) 社会保障a(2) 社会保障b(2) 福祉心理学専門演習Ⅰ(2) 福祉心理学専門演習Ⅱ(2) (この他に選択科目から30単位分の授業科目を選んで履修)
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 福祉心理学専門演習Ⅲ(2) 福祉心理学専門演習Ⅳ(2) (この他に選択科目から4単位分の授業科目を選んで履修)

※ () 内の数字は単位数を表す。

※ 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の受験資格を目指す場合は、P78・80・82に示す授業科目を履修し単位を修得する必要があります。

※ 転学科生については、転学科年次により各自の修得科目及び単位に応じて適宜履修してください。

※ 2年次転学科生については、専門科目領域 福祉心理学基盤演習Ⅰおよび福祉心理学基盤演習Ⅱは履修する必要はありません。

※ 3年次転学科生については、専門科目領域 福祉心理学基盤演習Ⅰ、福祉心理学基盤演習Ⅱ、福祉心理学基盤演習Ⅲ、および福祉心理学基盤演習Ⅳは履修する必要はありません。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目領域			専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	11単位	1単位	11単位	14単位	—	3単位	40単位
2年次	2単位	—	—	14単位	1単位	24単位	41単位
3年次	—	—	—	10単位	—	30単位	40単位
4年次	—	—	—	5単位	—	4単位	9単位
合計	13単位	1単位	11単位	43単位	1単位	61単位	130単位

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

iii 福祉心理学科 2020年度入学生／2021年度2年次転学科生／2022年度3，4年次転学科生適用

① 社会福祉関係

年次	総合基礎科目領域		専門科目領域	
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 情報リテラシー(1) 健康科学論(1) 人間関係論(1)	基礎演習Ⅱ(1) 心理学(2) 発達心理学(2) 英語Ⅰ－2(1)	現代社会と福祉Ⅰ(2) 社会保障論Ⅰ(2) 現代社会と福祉Ⅱ(2) 社会調査の基礎(2) 相談援助の基盤と専門職Ⅱ(2)	社会理論と社会システム(2) 児童福祉(2) 相談援助の基盤と専門職Ⅰ(2) 人体の構造と機能及び疾病(2)
2年次	英語Ⅱ－1(1)	英語Ⅱ－2(1)	就労支援サービス(2) 介護福祉(2) 保健医療サービス(2) 相談援助の理論と方法Ⅰ(2) 地域福祉の理論と方法Ⅰ(2) 相談援助演習Ⅰ(2) 福祉心理学基盤演習Ⅰ(2)	高齢者福祉(2) 障害者福祉(2) 公的扶助(2) 相談援助の理論と方法Ⅱ(2) 地域福祉の理論と方法Ⅱ(2) 相談援助演習Ⅱ(2) 福祉心理学基盤演習Ⅱ(2)
3年次	(必要に応じて選択科目を履修)		社会保障論Ⅱ(2) 権利擁護と成年後見制度(2) 更生保護制度(1) 福祉行政と福祉計画(2) 福祉サービスの組織と経営(2) 相談援助の理論と方法Ⅲ(2) 相談援助の理論と方法Ⅳ(2) 福祉心理学専門演習Ⅰ(2) 福祉心理学専門演習Ⅱ(2) (この他に選択科目から23単位分の授業科目を選んで履修) ※社会福祉士国家試験受験を目指すためには 下記選択科目を履修する必要がある。 ・相談援助演習Ⅲ(2) ・相談援助演習Ⅳ(2) ・相談援助実習指導Ⅰ(2) ・相談援助実習指導Ⅱ(2) ・相談援助実習(6)	
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)		チーム医療演習(1) 福祉心理学専門演習Ⅲ(2) 福祉心理学専門演習Ⅳ(2) (この他に選択科目から4単位分の授業科目を選んで履修) ※社会福祉士国家試験受験を目指すためには 下記選択科目を履修する必要がある。 ・相談援助演習Ⅴ(2) ・相談援助実習指導Ⅲ(2) ・相談援助実習(6)	

※ () 内の数字は単位数を表す。

※ 社会福祉士と同時に精神保健福祉士の受験資格を目指す場合は、P79・81に示す授業科目を履修し単位を修得する必要があります。

※ 転学科生については、転学科年次により各自の修得科目及び単位に応じて適宜履修してください。

※ 3，4年次転学科生については、専門科目領域 福祉心理学基盤演習Ⅰおよび福祉心理学基盤演習Ⅱは履修する必要はありません。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目領域			専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	11単位	1単位	7単位	18単位	—	4単位	41単位
2年次	2単位	—	4単位	28単位	1単位	5単位	40単位
3年次	—	—	—	17単位	—	23単位	40単位
4年次	—	—	—	5単位	—	4単位	9単位
合計	13単位	1単位	11単位	68単位	1単位	36単位	130単位

② 精神保健福祉関係

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
1 年次	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1) 情報リテラシー(1) 心理学(2) 健康科学論(1) 発達心理学(2) 人間関係論(1) 英語Ⅰ－1(1) 英語Ⅰ－2(1) 外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から10単位分の授業科目を選んで履修)	現代社会と福祉Ⅰ(2) 社会理論と社会システム(2) 社会保障論Ⅰ(2) 現代社会と福祉Ⅱ(2) 人体の構造と機能及び疾病(2) (この他に選択科目から8単位分の授業科目を選んで履修)
2 年次	英語Ⅱ－1(1) 英語Ⅱ－2(1) (この他に選択科目から1単位分の授業科目を選んで履修)	精神疾患とその治療Ⅰ(2) 精神疾患とその治療Ⅱ(2) 就労支援サービス(2) 精神保健の課題と支援Ⅰ(2) 精神保健の課題と支援Ⅱ(2) 障害者福祉(2) 専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 保健医療サービス(2) 公的扶助(2) 権利擁護と成年後見制度(2) 地域福祉の理論と方法Ⅰ(2) 地域福祉の理論と方法Ⅱ(2) 精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ(2) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(2) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(2) 福祉心理学基盤演習Ⅰ(2) 福祉心理学基盤演習Ⅱ(2) (この他に選択科目から5単位分の授業科目を選んで履修)
3 年次	(必要に応じて選択科目を履修)	社会保障論Ⅱ(2) 福祉行財政と福祉計画(2) 精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ(2) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ(2) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ(2) 精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ(2) 精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ(2) 精神障害者の生活支援システム(2) 精神保健福祉援助演習Ⅰ(2) 福祉心理学専門演習Ⅰ(2) 福祉心理学専門演習Ⅱ(2) (この他に選択科目から18単位分の授業科目を選んで履修) ※精神保健福祉士国家試験受験を目指すためには下記選択科目を履修する必要がある。 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(2)
4 年次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 精神保健福祉援助演習Ⅱ(2) 福祉心理学専門演習Ⅲ(2) 福祉心理学専門演習Ⅳ(2) (この他に選択科目から2単位分の授業科目を選んで履修) ※精神保健福祉士国家試験受験を目指すためには下記選択科目を履修する必要がある。 ・精神保健福祉援助演習Ⅲ(2) ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(2) ・精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(2) ・精神保健福祉援助実習(8)

※ () 内の数字は単位数を表す。

※ 精神保健福祉士と同時に社会福祉士の受験資格を目指す場合は、P79・81に示す授業科目を履修し単位を修得する必要があります。

※ 転学科生については、転学科年次により各自の修得科目・単位に応じて適宜履修してください。

※ 3, 4年次転学科生については、専門科目領域 福祉心理学基盤演習Ⅰおよび福祉心理学基盤演習Ⅱは履修する必要はありません。

「単位の内訳」

年 次	総合基礎科目領域			専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1 年次	11 単位	1 単位	10 単位	10 単位	—	8 単位	40 単位
2 年次	2 単位	—	1 単位	32 単位	1 単位	5 単位	41 単位
3 年次	—	—	—	22 単位	—	18 単位	40 単位
4 年次	—	—	—	7 単位	—	2 単位	9 単位
合 計	13 単位	1 単位	11 単位	71 単位	1 単位	33 単位	130 単位

Ⅱ 健康科学部 【3. 履修の手引き】

③ 発達臨床心理関係

年次	総合基礎科目領域	専門科目領域
1年次	基礎演習Ⅰ(1) 基礎演習Ⅱ(1) 情報リテラシー(1) 心理学(2) 健康科学論(1) 発達心理学(2) 人間関係論(1) 英語Ⅰ－1(1) 英語Ⅰ－2(1) 外国語科目群中、選択必修科目から1科目を選択 (この他に選択科目から7単位分の授業科目を選んで履修)	現代社会と福祉Ⅰ(2) 社会保障論Ⅰ(2) 現代社会と福祉Ⅱ(2) 人体の構造と機能及び疾病(2) 心理データ解析(2) 心理データ解析Ⅱ(2) (この他に選択科目から9単位分の授業科目を選んで履修)
2年次	英語Ⅱ－1(1) 英語Ⅱ－2(1) (この他に選択科目から4単位分の授業科目を選んで履修)	精神疾患とその治療Ⅰ(2) 精神疾患とその治療Ⅱ(2) 精神保健の課題と支援Ⅰ(2) 精神保健の課題と支援Ⅱ(2) 臨床心理学(2) 神経心理学(2) 専門基礎科目群臨床人間学系、選択必修科目から1科目を選択 心理アセスメント法(2) 心理学基礎実験(2) 臨床発達心理学(2) 福祉心理学基盤演習Ⅰ(2) 福祉心理学基盤演習Ⅱ(2) (この他に選択科目から12単位分の授業科目を選んで履修)
3年次	(必要に応じて選択科目を履修)	心理アセスメント法Ⅱ(2) 心理療法(2) 福祉心理学専門演習Ⅰ(2) 福祉心理学専門演習Ⅱ(2) (この他に選択科目から32単位分の授業科目を選んで履修)
4年次	(必要に応じて選択科目を履修)	チーム医療演習(1) 福祉心理学専門演習Ⅲ(2) 福祉心理学専門演習Ⅳ(2) (この他に選択科目から4単位分の授業科目を選んで履修)

※ () 内の数字は単位数を表す。

※ 転学科生については、転学科年次により各自の修得科目・単位に応じて適宜履修してください。

※ 3, 4年次転学科生については、専門科目領域 福祉心理学基盤演習Ⅰおよび福祉心理学基盤演習Ⅱは履修する必要はありません。

「単位の内訳」

年次	総合基礎科目領域			専門科目領域			計
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
1年次	11 単位	1 単位	7 単位	12 単位	—	9 単位	40 単位
2年次	2 単位	—	4 単位	22 単位	1 単位	12 単位	41 単位
3年次	—	—	—	8 単位	—	32 単位	40 単位
4年次	—	—	—	5 単位	—	4 単位	9 単位
合計	13 単位	1 単位	11 単位	47 単位	1 単位	57 単位	130 単位

4) 既修得単位の認定

入学前に他大学等において修得した授業科目の単位は、以下の方法により認定されることがあります。

(1) 教育課程の所要単位への包括的な単位認定

この単位認定は、本学健康科学部人間コミュニケーション学科に編入学した学生に適用され、短期大学・専門学校等で修得した授業科目の単位を包括的に当該学科における教育課程の所要単位として認定するものです。この方法で認定される単位数の上限は、以下のとおりとなります。なお、認定された単位は、それぞれの科目区分の自由選択の単位として算入されます。

学科	科目区分	包括認定単位数上限
		2024 年度以降編入学
人間コミュニケーション学科	総合基礎科目領域	18 単位まで
	専門科目領域	30 単位まで

(2) 授業科目別の単位認定

この単位認定は、入学前に他大学等において修得した授業科目のうち、本学の授業科目の内容と同等以上のものを本学の授業科目を修得したものとして授業科目別に単位を認定するものです。この単位認定には手続きが必要となりますので、該当する学生は事務室において手続きを行ってください。

5) 授業科目の履修に伴う前提条件

各学科の一部の授業科目では、当該授業科目を履修するために必要な条件が設けられているものがあります。以下に示す授業科目の履修については、指定する授業科目又は単位数等の修得を前提としています。

(1) リハビリテーション学科 理学療法学コース／理学療法学科

i 2020年度以降入学生適用

前提条件のある科目名	指定する授業科目又は単位数等の修得の前提条件
理学療法評価学実習 運動器系理学療法評価学演習 神経系理学療法評価学演習 内部障害系理学療法評価学演習	理学療法評価学の単位を修得していることが履修の要件です。
地域理学療法学実習 検査測定実習	専門基礎科目群および専門科目群の授業科目のうち、2年次終了までに履修することができる必須科目の単位を全て（地域理学療法学実習、検査測定実習を除く）修得していることが履修の要件です。なお、実習中に定めた単位を修得できないことが判明した場合は、地域理学療法学実習及び検査測定実習の単位は認めないこととなっています。
評価実習	専門基礎科目群および専門科目群の授業科目のうち、3年次終了までに履修することができる必須科目の単位を全て（評価実習を除く）修得していることが履修の要件です。なお、実習中に定めた単位を修得できないことが判明した場合は、評価実習の単位は認めないこととなっています。
理学療法特論 総合臨床実習	専門基礎科目群および専門科目群の授業科目のうち、3年次終了までに履修することができる必須科目の単位を全て（評価実習を含む）修得していることが履修の要件です。

ii 2016年度から2019年度入学生適用

前提条件のある科目名	指定する授業科目又は単位数等の修得の前提条件
理学療法評価学実習	理学療法評価学および理学療法診断学の単位を修得していることが履修の要件です。
臨床実習Ⅱ	専門基礎科目群および専門科目群の授業科目のうち、2年次終了までに履修することができる必須科目の単位を全て（臨床実習Ⅱを除く）修得していることが履修の要件です。なお、実習中に定めた単位を修得できないことが判明した場合は、臨床実習Ⅱ（検査・測定実習）の単位は認めないこととなっています。
臨床実習Ⅲ	専門基礎科目群および専門科目群の授業科目のうち、3年次終了までに履修することができる必須科目の単位を全て（臨床実習Ⅲを除く）修得していることが履修の要件です。なお、実習中に定めた単位を修得できないことが判明した場合は、臨床実習Ⅲ（評価実習）の単位は認めないこととなっています。
理学療法特論・臨床実習Ⅳ	専門基礎科目群および専門科目群の授業科目のうち、3年次終了までに履修することができる必須科目の単位を全て（臨床実習Ⅲを含む）修得していることが履修の要件です。

(2) リハビリテーション学科 作業療法学コース／作業療法学科（2020年度以降入学生適用）

前提条件のある科目名	指定する授業科目又は単位数等の修得の前提条件
作業療法演習Ⅰ-2	作業療法演習Ⅰ-1の単位を修得していることが履修の要件です。
作業療法演習Ⅱ-2	作業療法演習Ⅱ-1の単位を修得していることが履修の要件です。
臨床実習Ⅲ（評価実習）	臨床実習Ⅱ（地域実習）を除く3年生前期までに配当されている卒業に必要な必修、選択必修、選択のすべての科目を履修し単位を修得していることが履修の要件です。
臨床実習Ⅳ（総合実習）	臨床実習Ⅴ（総合実習）および作業療法学特論を除く卒業に必要なすべての科目を履修し単位を修得していることが履修の要件です。
臨床実習Ⅴ（総合実習）	臨床実習Ⅳ（総合実習）および作業療法学特論を除く卒業に必要なすべての科目を履修し単位を修得していることが履修の要件です。

Ⅱ 健康科学部 〔3. 履修の手引き〕

（3）人間コミュニケーション学科／福祉心理学科

i 人間コミュニケーション学科（入学生・転学科生）／福祉心理学科（2021年度入学生・1年次転学科生／2022年度2年次転学科生適用）

① ソーシャルワーク演習

ソーシャルワーク演習を履修するためには、2年次前期までに以下の2点の要件を満たしていることが必要となります。なお、社会福祉士の国家資格を目指す場合は表1、精神保健福祉士の国家資格を目指す場合は表2、両方の国家資格を目指す場合は表1・表2の両方が対象となります。

要件1：該当科目を履修し単位を取得していること。

要件2：該当科目のGPAが2.8以上であること。

要件1・2のいずれかを満たさなかった場合には、翌年度以降、以下の条件を満たすことによってソーシャルワーク演習の履修を認めます。

（ア）要件1を満たしていない場合には、翌年度の前期終了時に要件1を満たしていること。

（イ）要件2を満たしていない場合には、翌年度、ソーシャルワーク演習開講前に実施される学力評価試験を受け合格すること。

（ウ）上記（ア）（イ）にかかわらず、担当教員による面接指導を継続して受けること。

なお、特別な事由により前述の要件で履修することが困難である学生（例：編入学生・転学科生等）は、単位取得状況等を鑑みて当該授業科目の履修の可否について学科会議で審議します。

表 1

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数	要件 1 該当科目 (○で表示)	要件 2 該当科目 (○で表示)
総合基礎科目領域	基礎演習Ⅰ	1	1	○	
	基礎演習Ⅱ	1	1	○	
	情報リテラシー	1	1	○	
	心理学と心理的支援（心理学概論）	1	2	○	○
	健康科学論	1	1	○	
	人間関係論	1	1	○	
	発達心理学	1	2	○	
	英語Ⅰ-1	1	1	○	
	英語Ⅰ-2	1	1	○	
	英語Ⅱ-1	2	1	○	
専門科目領域	社会福祉の原理と政策 a	1	2	○	○
	社会学と社会システム	1	2	○	○
	障害者福祉	2	2	○	○
	高齢者福祉	2	2	○	○
	臨床心理学概論	1	2	○	
	社会・集団・家族心理学	1	2	○	
	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	1	2	○	○
	ソーシャルワークの基盤と専門職	1	2	○	○
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	1	2	○	○
	ソーシャルワークの理論と方法 a	1	2	○	○
	ソーシャルワークの理論と方法 b	1	2	○	○
	社会福祉調査の基礎	2	2	○	○
	地域福祉と包括的支援体制 a	2	2	○	○
	児童・家庭福祉	2	2	○	○
	ソーシャルワークの理論と方法（専門） a	2	2	○	○
	学習・言語心理学	1	2	○	
	感情・人格心理学	2	2	○	
	福祉心理学基盤演習Ⅰ	1	1	○	
	福祉心理学基盤演習Ⅱ	1	1	○	
	福祉心理学基盤演習Ⅲ	2	2	○	
合 計			50		

表 2

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数	要件 1 該当科目 (○で表示)	要件 2 該当科目 (○で表示)
総合基礎科目領域	基礎演習Ⅰ	1	1	○	
	基礎演習Ⅱ	1	1	○	
	情報リテラシー	1	1	○	
	心理学と心理的支援（心理学概論）	1	2	○	○
	健康科学論	1	1	○	
	人間関係論	1	1	○	
	発達心理学	1	2	○	
	英語Ⅰ-1	1	1	○	
	英語Ⅰ-2	1	1	○	
	英語Ⅱ-1	2	1	○	

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数	要件 1 該当科目 (○で表示)	要件 2 該当科目 (○で表示)
専門科目領域	社会福祉の原理と政策 a	1	2	○	○
	社会学と社会システム	1	2	○	○
	障害者福祉	2	2	○	○
	現代の精神保健の課題と支援 A	2	2	○	○
	臨床心理学概論	1	2	○	
	社会・集団・家族心理学	1	2	○	
	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	1	2	○	○
	ソーシャルワークの基盤と専門職	1	2	○	○
	ソーシャルワークの理論と方法 a	1	2	○	○
	ソーシャルワークの理論と方法 b	1	2	○	○
	精神保健福祉の原理 A	1	2	○	○
	社会福祉調査の基礎	2	2	○	○
	地域福祉と包括的支援体制 a	2	2	○	○
	ソーシャルワークの理論と方法（専門） A	2	2	○	○
	学習・言語心理学	1	2	○	
	感情・人格心理学	2	2	○	
	福祉心理学基盤演習Ⅰ	1	1	○	
	福祉心理学基盤演習Ⅱ	1	1	○	
	福祉心理学基盤演習Ⅲ	2	2	○	
合 計			48		

② コミュニケーション演習

コミュニケーション演習を履修するためには、2 年前期までに表 3 における以下の 2 点の要件を満たしていることが必要となります。

要件 1：該当科目を履修し単位を取得していること。

要件 2：該当科目の GPA が 2.8 以上であること。

要件 1・2 のいずれかを満たさなかった場合には、翌年度以降、以下の条件を満たすことによってコミュニケーション演習の履修を認めます。

(ア)要件 1 を満たしていない場合には、翌年度の前期終了時に要件 1 を満たしていること。

(イ)要件 2 を満たしていない場合には、翌年度、コミュニケーション演習開講前に実施される学力評価試験を受け合格すること。

(ウ)上記(ア)(イ)にかかわらず、担当教員による面接指導を継続して受けること。

なお、特別な事由により前述の要件で履修することが困難である学生（例：編入学生・転学科生等）は、単位取得状況等を鑑みて当該授業科目の履修の可否について学科会議で審議します。

表 3

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数	要件 1 該当科目 (○で表示)	要件 2 該当科目 (○で表示)
総合基礎科目領域	基礎演習 I	1	1	○	
	基礎演習 II	1	1	○	
	情報リテラシー	1	1	○	
	心理学と心理的支援（心理学概論）	1	2	○	○
	健康科学論	1	1	○	
	人間関係論	1	1	○	
	発達心理学	1	2	○	○
	英語 I-1	1	1	○	
	英語 I-2	1	1	○	
	英語 II-1	2	1	○	
専門科目領域	社会福祉の原理と政策 a	1	2	○	
	社会学と社会システム	1	2	○	
	障害者福祉	2	2	○	
	臨床心理学概論	1	2	○	○
	社会・集団・家族心理学	1	2	○	○
	障害者・障害児心理学	2	2	○	○
	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	1	2	○	○
	社会福祉調査の基礎	2	2	○	
	心理学実験 1	1	1	○	○
	知覚・認知心理学	1	2	○	○
	学習・言語心理学	1	2	○	○
	心理学統計法	2	2	○	○
	感情・人格心理学	2	2	○	○
	福祉心理学基盤演習 I	1	1	○	
	福祉心理学基盤演習 II	1	1	○	
	福祉心理学基盤演習 III	2	2	○	
合 計			41		

③ 社会福祉士の国家資格を目指す場合の、ソーシャルワーク演習（専門）・ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習

表 4 に定める科目を履修するためには、ソーシャルワーク演習を履修し単位を取得している必要があります。なお、特別な事由により前述の要件で履修することが困難である学生（例：編入学生・転学科生等）は、単位取得状況等を鑑みて当該授業科目の履修の可否について学科会議で審議します。

表 4

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数
専門科目領域	ソーシャルワーク演習（専門） a	2	2
	ソーシャルワーク演習（専門） b	3	2
	ソーシャルワーク演習（専門） c	3	2
	ソーシャルワーク演習（専門） d	4	2
	ソーシャルワーク実習指導 a	2	2
	ソーシャルワーク実習指導 b	3	2
	ソーシャルワーク実習指導 c	4	2
	ソーシャルワーク実習 a	2	1
	ソーシャルワーク実習 b	3・4	4
合 計			19

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

④ 精神保健福祉士の国家資格を目指す場合の、ソーシャルワーク演習（専門）・ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習

表5に定める科目を履修するためには、ソーシャルワーク演習を履修し単位を取得している必要があります。なお、特別な事由により前述の要件で履修することが困難である学生（例：編入学生・転学科生等）は、単位取得状況等を鑑みて当該授業科目の履修の可否について学科会議で審議します。

表5

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数
専門科目領域	ソーシャルワーク演習（専門）A	3	2
	ソーシャルワーク演習（専門）B	4	2
	ソーシャルワーク演習（専門）C	4	2
	ソーシャルワーク実習指導A	3	2
	ソーシャルワーク実習指導B	4	2
	ソーシャルワーク実習指導C	4	2
	ソーシャルワーク実習A	4	2
	ソーシャルワーク実習B	4	2
合 計			16

⑤ 心理演習・心理実習

表6に定める科目を履修するためには、コミュニケーション演習を履修し単位を取得している必要があります。なお、特別な事由により前述の要件で履修することが困難である学生（例：編入学生・転学科生等）は、単位取得状況等を鑑みて当該授業科目の履修の可否について学科会議で審議します。

表6

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数
専門科目領域	心理演習1	3	1
	心理実習1	3	2
	心理演習2	4	1
	心理実習2	4	2
合 計			(注1)

(注1) 心理実習1および心理実習2は、履修時期と履修クラス設定の違いであり、どちらか1つを履修する。

⑥ 福祉心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ

福祉心理学専門演習ⅠまたはⅡを履修するためには、福祉心理学基盤演習Ⅰ、Ⅱ、ⅢおよびⅣの単位を取得している必要があります。ただし、編入学および3・4年次転学科で福祉心理学科に入学した学生は、この限りではありません。

ii 福祉心理学科（2020年度入学生／2021年度2年次転学科生／2022年度3，4年次転学科生適用）

① 相談援助実習指導Ⅱ

相談援助実習指導Ⅱを履修するためには、相談援助実習指導Ⅰの単位を修得していることが履修の要件です。

② 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ

精神保健福祉援助実習指導Ⅱを履修するためには、精神保健福祉援助実習指導Ⅰの単位を修得していることが履修の要件です。

③ 福祉心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ

福祉心理学専門演習Ⅰ又はⅡを履修するためには、福祉心理学基盤演習Ⅰ及びⅡの単位を修得していることが履修の要件です。ただし、編入学及び3・4年次転学科で福祉心理学科に入学した学生は、この限りではありません。

④ 学外実習に係る授業科目

「相談援助実習」及び「精神保健福祉援助実習」を履修するためには、下記のとおり所定の時期までに特定の授業科目の修得が原則必要となります。なお、特別な事由により下記要件で履修することが困難である学生（例：編入学生・転学科生等）は、単位取得状況等を鑑みて当該授業科目の履修の可否について学科会議で審議します。

[相談援助実習（福祉心理学科（2020年度入学生／2021年度2年次転学科生／2022年度3，4年次転学科生適用））]

当該授業科目を履修するためには、3年次前期までに下記のA表に定める全ての授業科目の修得と、B表に定める授業科目27単位中22単位以上の修得が必要となります。

Ⅱ 健康科学部 〔3. 履修の手引き〕

A表

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数
総合基礎科目領域	基礎演習Ⅰ	1	1
	基礎演習Ⅱ	1	1
	情報リテラシー	1	1
	心理学	1・2	2
	健康科学論	1	1
	発達心理学	1	2
	人間関係論	1	1
	英語Ⅰ・1	1	1
	英語Ⅰ・2	1	1
	英語Ⅱ・1	2	1
	英語Ⅱ・2	2	1
専門科目領域	現代社会と福祉Ⅰ	1	2
	現代社会と福祉Ⅱ	1・2	2
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1	2
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1	2
	社会保障論Ⅰ	1・2	2
	社会理論と社会システム	1・2	2
	児童福祉	1・2	2
	社会調査の基礎	1・2	2
	人体の構造と機能及び疾病	1	2
	福祉心理学基盤演習Ⅰ	2	2
	福祉心理学基盤演習Ⅱ	2	2
	相談援助演習Ⅰ	2	2
	相談援助演習Ⅱ	2	2
	相談援助演習Ⅲ	3	2
	相談援助実習指導Ⅰ	3	2
	福祉心理学専門演習Ⅰ	3	2
合 計			45

B表

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数
専門科目領域	高齢者福祉	2・3	2
	介護福祉	2・3	2
	障害者福祉	2・3	2
	保健医療サービス	2・3	2
	公的扶助	2・3	2
	権利擁護と成年後見制度	2・3	2
	就労支援サービス	2・3	2
	更生保護制度	2・3	1
	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	2
	相談援助の理論と方法Ⅱ	2	2
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	2・3	2
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	2・3	2
	社会保障論Ⅱ	3	2
	相談援助の理論と方法Ⅲ	3	2
合 計			27

[精神保健福祉援助実習(福祉心理学科(2020年度入学生/2021年度2年次転学科生/2022年度3, 4年次転学科生)適用)]

当該授業科目を履修するためには、4年次前期までに下記の表に定める全ての授業科目の修得が必要となります。

科目区分	科 目 名	配当年次	単位数
総合基礎科目領域	基礎演習Ⅰ	1	1
	基礎演習Ⅱ	1	1
	情報リテラシー	1	1
	心理学	1・2	2
	健康科学論	1	1
	発達心理学	1	2
	人間関係論	1	1
	英語Ⅰ-1	1	1
	英語Ⅰ-2	1	1
	英語Ⅱ-1	2	1
	英語Ⅱ-2	2	1
専門科目領域	現代社会と福祉Ⅰ	1	2
	現代社会と福祉Ⅱ	1・2	2
	社会保障論Ⅰ	1・2	2
	社会保障論Ⅱ	3	2
	社会理論と社会システム	1・2	2
	人体の構造と機能及び疾病	1	2
	精神疾患とその治療Ⅰ	2	2
	精神疾患とその治療Ⅱ	2	2
	精神保健の課題と支援Ⅰ	2	2
	精神保健の課題と支援Ⅱ	2	2
	障害者福祉	2・3	2
	保健医療サービス	2・3	2
	公的扶助	2・3	2
	権利擁護と成年後見制度	2・3	2
	就労支援サービス	2・3	2
	福祉行財政と福祉計画	3・4	2
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	2・3	2
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	2・3	2
	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ	2	2
	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ	3	2
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2	2
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	2	2
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	3	2
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	3	2
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	3	2
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	3	2
	精神障害者の生活支援システム	3	2
	福祉心理学基盤演習Ⅰ	2	2
	福祉心理学基盤演習Ⅱ	2	2
	福祉心理学専門演習Ⅰ	3	2
	福祉心理学専門演習Ⅱ	3	2
	福祉心理学専門演習Ⅲ	4	2
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3	2
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	2
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2
合計			85

[相談援助実習と精神保健福祉援助実習の両授業科目を履修する場合]

相談援助実習と精神保健福祉援助実習の両方を履修する学生は、当該授業科目の履修要件をそれぞれ満たす必要があります。

6) カリキュラムの変更に伴う旧カリキュラムの対応

(1) 適用するカリキュラム・卒業要件

適用するカリキュラム及び卒業要件は、基本的に入学時から変わることはありません。

次の表に該当する学生は、科目読替表を参考に授業科目を履修してください。

学科	入学年度・転学科年度	科目読替表 該当ページ
理学療法学科	2016年度から2019年度入学生	P115
福祉心理学科 (社会福祉関係)	2020年度入学生／2021年度2年次転学科生／2022年度3, 4年次転学科生	P116
福祉心理学科 (精神保健福祉関係)	2020年度入学生／2021年度2年次転学科生／2022年度3, 4年次転学科生	P117
福祉心理学科 (発達臨床心理関係)	2020年度入学生／2021年度2年次転学科生／2022年度3, 4年次転学科生	P118

(2) 旧カリキュラムの対応

授業は、基本的に最新のカリキュラムに基づき実施されています。最新のカリキュラムの多くは、旧カリキュラム（変更される前のカリキュラム）の授業科目と同一授業科目で構成されていますが、一部は新旧カリキュラム間で「科目名が異なる授業科目」「単位数が異なる授業科目」「旧カリキュラムには存在しない授業科目」などがあります。そのため旧カリキュラムに対しては、次のような措置が図られます。

① 授業科目の読替え措置

ここでいう授業科目の読替え措置とは、ある旧授業科目に対して、同等の内容をもつ新授業科目をあて、新旧授業科目の間に相互関係を設けて、新授業科目を修得することによって旧授業科目を修得したものとする措置のことです。新旧授業科目間の読替え対応は、P115～118「科目読替表」を確認してください。

② 授業科目の開講措置

カリキュラムの変更に伴い、適用するカリキュラムにおいて一部開講しない授業科目がありますので注意してください。

(3) 旧カリキュラムが適用される学生の履修上の注意事項

① 履修登録

- ※1 履修登録は、適用するカリキュラムに基づき科目読替表及び時間割表を参考に行ってください。
- ※2 読替え措置の対応がある授業科目は、新授業科目と旧授業科目を別々の授業科目として履修することはできません。

② 単位数

- ※1 各授業科目の単位数は、すべて適用するカリキュラムに基づきます。(旧カリキュラムを適用する学生が新旧授業科目間で読替え措置の対応がある授業科目を履修した場合においては、旧授業科目の単位数が適用されます。)

③ 履修年次

- ※ 各授業科目は、基本的に新カリキュラムに合わせて開講されますが、適用するカリキュラムの配当年次に従って履修してください。

④ 各種配付書類の表記

- ※1 「シラバス」は、基本的に新カリキュラムに合わせて作成されています。適用するカリキュラムと科目名・授業内容・単位数・配当年次が異なる場合がありますので科目読替表を確認してください。
- ※2 「成績通知書」「成績証明書」に表示する科目名は、すべて適用するカリキュラムに基づき表示されます。

(4) 科目読替表

科 目 読 替 表 の 見 方

科 目 名 2016年度から 2019年度までの カリキュラム	配当年次	単位数	必修・選択 区 分	新旧カリキュ ラム間の対応	新カリキュラム	
					開 講 科目区分	開 講 科 目 名
国際福祉論	1・2	2	選択	読替措置 ←	総合/人間	世界の福祉
精神医学Ⅰ	2	2	必修	読替措置 ←	専門/専門基礎	精神医学

【 1 】

【 2 】

【 3 】

【 4 】

【 1 】「科目名」欄

適用するカリキュラム及び授業科目を表します。

【 2 】「配当年次」・「単位数」・「必修・選択区分」欄

適用される配当年次、単位数及び必修・選択の区分を表します。

【 3 】「新旧カリキュラム間の対応」欄

読替措置	新授業科目を修得することによって旧授業科目を修得したものとする措置が図られる授業科目を表します。
------	--

【 4 】「新カリキュラム」欄

①開講科目区分

授業科目は、新カリキュラムに合わせて開講されているため、当該年度で開講される科目区分を表します。科目区分を次のとおり略して表示しています。

略称	科目区分
総合/共通	総合基礎科目領域 共通基礎科目群
総合/人間	総合基礎科目領域 人間基礎科目群
総合/外国	総合基礎科目領域 外国語科目群
専門/専門基礎	専門科目領域 専門基礎科目群
専門/理学専門	専門科目領域 専門科目群（理学療法学科）
専門/作業専門	専門科目領域 専門科目群（作業療法学科）
専門/福祉専門	専門科目領域 専門科目群（福祉心理学科）

②開講科目名

当該年度で開講される授業科目の名称を表します。

① 理学療法学科（2016年度から2019年度入学生適用）

科目区分	科目名 2016年度から 2019年度までの カリキュラム	配当年次	単位数	必修・選択 区分	新旧カリキュ ラム間の対応	新カリキュラム	
						開講 科目区分	開講 科目名
総合/人間	国際福祉論	1・2	2	選択	読替措置	← 総合/人間	世界の福祉
専門/専門基礎	精神医学Ⅰ	2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	精神医学
専門/専門	物理療法学	3	1	必修	読替措置	← 専門/理学専門	物理療法学
専門/専門	地域理学療法学	3	1	必修	読替措置	← 専門/理学専門	地域理学療法学
専門/専門	高齢者理学療法学	3	1	必修	読替措置	← 専門/理学専門	地域理学療法学
専門/専門	理学療法演習Ⅲ-1	3	1	必修	読替措置	← 専門/理学専門	理学療法演習Ⅲ
専門/専門	理学療法マネジメント	3	1	必修	読替措置	← 専門/理学専門	理学療法管理学
専門/専門	スポーツ医科学	3	1	選択	読替措置	← 専門/理学専門	スポーツ医学

Ⅱ 健康科学部 [3. 履修の手引き]

② 福祉心理学科 社会福祉関係 (2020年度入学生/2021年度2次転学科適用/2022年度3, 4年次転学科生適用)

科目区分	科目名 2020年度の カリキュラム	配当 年次	単位数	必修・選択 区 分	新旧カリキュ ラム間の対応	新カリキュラム	
						開 講 科目区分	開 講 科目名
総合/共通	心理学	1・2	2	必修	読替措置	← 総合/共通	心理学と心理的支援 (心理学概論)
専門/専門基礎	精神疾患とその治療Ⅰ	2	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	精神医学と精神医療A (精神疾患とその治療1)
専門/専門基礎	精神疾患とその治療Ⅱ	2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	精神医学と精神医療B (精神疾患とその治療2)
専門/専門基礎	社会理論と社会システム	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会学と社会システム
専門/専門基礎	社会保障論Ⅰ	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	社会保障 a
専門/専門基礎	現代社会と福祉Ⅰ	1	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会福祉の原理と政策 a
専門/専門基礎	精神保健の課題と支援Ⅰ	2	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	現代の精神保健の課題と支援 A
専門/専門基礎	精神保健の課題と支援Ⅱ	2	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	現代の精神保健の課題と支援 B
専門/専門基礎	障害者心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	障害者・障害児心理学
専門/専門基礎	神経心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	神経・生理心理学
専門/専門基礎	社会心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	社会・集団・家族心理学
専門/福祉専門	現代社会と福祉Ⅱ	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会福祉の原理と政策 b
専門/福祉専門	社会保障論Ⅱ	3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	社会保障 b
専門/福祉専門	児童福祉	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	児童・家庭福祉
専門/福祉専門	社会調査の基礎	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	社会福祉調査の基礎
専門/福祉専門	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの基盤と専門職
専門/福祉専門	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)
専門/福祉専門	人体の構造と機能及び疾病	1	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	医学概論 (人体の構造と機能及び疾病)
専門/福祉専門	保健医療サービス	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	保健医療と福祉
専門/福祉専門	公的扶助	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	貧困に対する支援
専門/福祉専門	権利擁護と成年後見制度	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	権利擁護を支える法制度
専門/福祉専門	就労支援サービス	2・3	1	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	就労支援サービス
専門/福祉専門	更生保護制度	2・3	1	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	刑事司法と福祉
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 a
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅱ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 b
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅲ	3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) a
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅳ	3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) b
専門/福祉専門	地域福祉の理論と方法Ⅰ	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	地域福祉と包括的支援体制 a
専門/福祉専門	地域福祉の理論と方法Ⅱ	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	地域福祉と包括的支援体制 b
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅱ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) a
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅲ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) b
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅳ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) c
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅴ	4	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) d
専門/福祉専門	相談援助実習指導Ⅰ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 a
専門/福祉専門	相談援助実習指導Ⅱ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 b
専門/福祉専門	相談援助実習指導Ⅲ	4	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 c
専門/福祉専門	心理データ解析	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	心理学統計法
専門/福祉専門	心理アセスメント法	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	心理的アセスメント
専門/福祉専門	心理療法	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	心理学的支援法
専門/福祉専門	臨床心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	臨床心理学概論
専門/福祉専門	人格心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	感情・人格心理学
専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅰ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅲ
専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅱ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅳ

※ 3, 4年次転学科生については、専門/福祉専門 福祉心理学基盤演習Ⅰおよび福祉心理学基盤演習Ⅱが教育課程表から除外されます。

③ 福祉心理学科 精神保健福祉関係 (2020年度入学生/2021年度2年次転学科適用/2022年度3, 4年次転学科生適用)

科目区分	科目名 2020年度の カリキュラム	配当 年次	単位数	必修・選択 区 分	新旧カリキュ ラム間の対応	新カリキュラム	
						開 講 科目区分	開 講 科 目 名
総合/共通	心理学	1・2	2	必修	読替措置	← 総合/共通	心理学と心理的支援 (心理学概論)
専門/専門基礎	精神疾患とその治療Ⅰ	2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	精神医学と精神医療A (精神疾患とその治療1)
専門/専門基礎	精神疾患とその治療Ⅱ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	精神医学と精神医療B (精神疾患とその治療2)
専門/専門基礎	社会理論と社会システム	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会学と社会システム
専門/専門基礎	社会保障論Ⅰ	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	社会保障 a
専門/専門基礎	現代社会と福祉Ⅰ	1	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会福祉の原理と政策 a
専門/専門基礎	精神保健の課題と支援Ⅰ	2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	現代の精神保健の課題と支援A
専門/専門基礎	精神保健の課題と支援Ⅱ	2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	現代の精神保健の課題と支援B
専門/専門基礎	障害者心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	障害者・障害児心理学
専門/専門基礎	神経心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	神経・生理心理学
専門/専門基礎	社会心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	社会・集団・家族心理学
専門/福祉専門	現代社会と福祉Ⅱ	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会福祉の原理と政策 b
専門/福祉専門	社会保障論Ⅱ	3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	社会保障 b
専門/福祉専門	児童福祉	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	児童・家庭福祉
専門/福祉専門	社会調査の基礎	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	社会福祉調査の基礎
専門/福祉専門	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの基盤と専門職
専門/福祉専門	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)
専門/福祉専門	人体の構造と機能及び疾病	1	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	医学概論 (人体の構造と機能及び疾病)
専門/福祉専門	保健医療サービス	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	保健医療と福祉
専門/福祉専門	公的扶助	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	貧困に対する支援
専門/福祉専門	権利擁護と成年後見制度	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	権利擁護を支える法制度
専門/福祉専門	就労支援サービス	2・3	1	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	就労支援サービス
専門/福祉専門	更生保護制度	2・3	1	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	刑事司法と福祉
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 a
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅱ	2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 b
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅲ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) a
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法Ⅳ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) b
専門/福祉専門	地域福祉の理論と方法Ⅰ	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	地域福祉と包括的支援体制 a
専門/福祉専門	地域福祉の理論と方法Ⅱ	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	地域福祉と包括的支援体制 b
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅱ	2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) a
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅲ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) b
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅳ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) c
専門/福祉専門	相談援助演習Ⅴ	4	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) d
専門/福祉専門	相談援助実習指導Ⅰ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 a
専門/福祉専門	相談援助実習指導Ⅱ	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 b
専門/福祉専門	相談援助実習指導Ⅲ	4	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 c
専門/福祉専門	心理データ解析	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	心理学統計法
専門/福祉専門	心理アセスメント法	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	心理的アセスメント
専門/福祉専門	心理療法	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	心理学的支援法
専門/福祉専門	臨床心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	臨床心理学概論
専門/福祉専門	人格心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	感情・人格心理学
専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅰ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅲ
専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅱ	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習Ⅳ

※ 3, 4年次転学科生については、専門/福祉専門 福祉心理学基盤演習Ⅰおよび福祉心理学基盤演習Ⅱが教育課程表から除外されます。

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

④ 福祉心理学科 発達臨床心理関係 (2020年度入学生/2021年度2年次転学科適用/2022年度3, 4年次転学科生適用)

科目区分	科目名 2020年度の カリキュラム	配当 年次	単位数	必修・選択 区 分	新旧カリキュ ラム間の対応	新カリキュラム	
						開 講 科目区分	開 講 科 目 名
総合/共通	心理学	1・2	2	必修	読替措置	← 総合/共通	心理学と心理的支援 (心理学概論)
専門/専門基礎	精神疾患とその治療 I	2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	精神医学と精神医療 A (精神疾患とその治療 1)
専門/専門基礎	精神疾患とその治療 II	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	精神医学と精神医療 B (精神疾患とその治療 2)
専門/専門基礎	社会理論と社会システム	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	社会学と社会システム
専門/専門基礎	社会保障論 I	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	社会保障 a
専門/専門基礎	現代社会と福祉 I	1	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会福祉の原理と政策 a
専門/専門基礎	精神保健の課題と支援 I	2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	現代の精神保健の課題と支援 A
専門/専門基礎	精神保健の課題と支援 II	2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	現代の精神保健の課題と支援 B
専門/専門基礎	障害者心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	障害者・障害児心理学
専門/専門基礎	神経心理学	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	神経・生理心理学
専門/専門基礎	社会心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	社会・集団・家族心理学
専門/福祉専門	現代社会と福祉 II	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/専門基礎	社会福祉の原理と政策 b
専門/福祉専門	社会保障論 II	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	社会保障 b
専門/福祉専門	児童福祉	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	児童・家庭福祉
専門/福祉専門	社会調査の基礎	1・2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	社会福祉調査の基礎
専門/福祉専門	相談援助の基盤と専門職 I	1	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの基盤と専門職
専門/福祉専門	相談援助の基盤と専門職 II	1	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)
専門/福祉専門	人体の構造と機能及び疾病	1	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	医学概論 (人体の構造と機能及び疾病)
専門/福祉専門	保健医療サービス	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	保健医療と福祉
専門/福祉専門	公的扶助	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	貧困に対する支援
専門/福祉専門	権利擁護と成年後見制度	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	権利擁護を支える法制度
専門/福祉専門	就労支援サービス	2・3	1	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	就労支援サービス
専門/福祉専門	更生保護制度	2・3	1	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	刑事司法と福祉
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法 I	2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 a
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法 II	2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 b
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法 III	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) a
専門/福祉専門	相談援助の理論と方法 IV	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) b
専門/福祉専門	地域福祉の理論と方法 I	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	地域福祉と包括的支援体制 a
専門/福祉専門	地域福祉の理論と方法 II	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	地域福祉と包括的支援体制 b
専門/福祉専門	相談援助演習 II	2	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) a
専門/福祉専門	相談援助演習 III	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) b
専門/福祉専門	相談援助演習 IV	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) c
専門/福祉専門	相談援助演習 V	4	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク演習 (専門) d
専門/福祉専門	相談援助実習指導 I	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 a
専門/福祉専門	相談援助実習指導 II	3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 b
専門/福祉専門	相談援助実習指導 III	4	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	ソーシャルワーク実習指導 c
専門/福祉専門	心理データ解析	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	心理学統計法
専門/福祉専門	心理アセスメント法	1・2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	心理的アセスメント
専門/福祉専門	心理療法	2・3	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	心理学的支援法
専門/福祉専門	臨床心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/専門基礎	臨床心理学概論
専門/福祉専門	人格心理学	2・3	2	選択	読替措置	← 専門/福祉専門	感情・人格心理学
専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習 I	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習 III
専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習 II	2	2	必修	読替措置	← 専門/福祉専門	福祉心理学基盤演習 IV

※3, 4年次転学科生については、専門/福祉専門 福祉心理学基盤演習 I および福祉心理学基盤演習 II が教育課程表から除外されます。

3. 3 試験

1) 試験の種類、方法

(1) 試験の種類

- ① 定期試験：学期末に一定の期間を定めて行う試験
- ② 追試験：公欠、病気、その他のやむを得ない理由により履修登録した授業科目に係る試験を受けることができなかった者に対して行う試験
- ③ 再試験：履修した授業科目に係る定期試験を受けた結果、不合格となった者に対して行う試験

(2) 試験の方法

試験は、筆記試験、実技試験及び口述試験のいずれかにより行います。授業科目により論文又はレポート等の提出をもって試験に代えることがあります。

2) 定期試験

(1) 受験資格：次の条件を全て満たす者に受験資格が与えられます。

- ① 履修登録していること。
- ② 納入すべき学費が完納されていること。
- ③ 出席回数が総授業回数の3分の2以上（科目名に演習又は実習を含む授業科目については5分の4以上）を満たしていること。

(2) 実施時期：学期末

※ 学期途中に終了する授業科目又は集中開講される授業科目等については、定期試験の時期を変更して行うことがあります。

3) 追試験

公欠、病気、その他のやむを得ない理由により履修登録した授業科目に係る次の試験を受けることができなかった者に対して追試験を行います。

(1) 対象試験：① 定期試験

- ② 公欠、病気、その他のやむを得ない理由により進級に係る授業科目又はこれに準ずる授業科目の定期試験を受けることができなかった学生に対して行う追試験
- ③ 進級に係る授業科目又はこれに準ずる授業科目の定期試験を受けた結果、不合格になった学生に対して行う再試験

※1 進級に係る授業科目及びこれに準ずる授業科目は次のとおりです。

○リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科・・・専門科目領域に属する必修科目
及びリハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科

○人間コミュニケーション学科/福祉心理学科・・・ソーシャルワーク演習
コミュニケーション演習

○福祉心理学科・・・・・・・・・・・・相談援助実習指導Ⅰ
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

※2 上記②、③の試験に対する追試験を欠席した場合は、これ以上の追試験は行いません。

II 健康科学部 [3. 履修の手引き]

- (2) 受験資格：試験の受験資格を満たしており、公欠、病気、その他のやむを得ない理由により「(1) 対象試験」に記載する試験を受けることができなかった者
- (3) 実施時期：原則として試験実施後
- (4) 受験手続：追試験を受けようとする者は、所定の期日までに次の書類に追試験受験料を添えて事務室窓口に提出してください。

◇提出書類：①追試験受験願

②試験を受けることができなかった理由を証明する書類

理由	証明する書類
①公欠	P96～98「8）欠席等の取り扱い（4）公欠となる欠席」を参照
②病気	医師の診断書 (※通院日、入院日、安静期間等の記載があるもの)
③その他の理由	理由を証明する書類

※③その他の理由による追試験の受験は、審議の上、許可します。

◇追試験受験料：1科目につき1,000円

※注意：「(1) 対象試験」の②及び③に対する追試験は、受けることができなかった試験の受験手続きが済んでいなければ手続きをすることができません。

4) 再試験

履修した授業科目に係る定期試験を受けた結果、不合格となった者に対して再試験を行います。

※1 定期試験を受けなかった者（追試験を行う者を除く）は、定期試験を受け、不合格となった者とみなします。

※2 追試験又は再試験を受けた結果、不合格になった者に対しては再試験を行いません。

(1) 受験資格：定期試験を受けた結果、不合格となった者

※ 該当者の発表は、定期試験実施後、大学掲示板及び大学ホームページ内学内掲示板にて行います。

(2) 実施時期：定期試験実施後

(3) 受験手続：再試験を受けようとする者は、所定の期日までに次の書類に再試験受験料を添えて事務室に提出してください。

◇提出書類：再試験受験願

◇再試験受験料：1科目につき2,000円

5) 試験における注意事項

(1) 試験室への入室・退室

- ① 受験者は、試験開始前までに所定の試験室へ入室し、試験監督者の指示に従って、座席に着席してください。
- ② 試験室への入室は、試験開始後20分まで認められます。
- ③ 試験室からの退室は、試験開始後30分以降から認められます。(退室した者の再入室は、当該試験が終了するまで認められません。)

(2) 受験者の義務

受験者は、試験を受ける際に次の事項を厳守してください。

- ① 試験を受ける際は、試験監督者の指示に従うこと。
- ② 試験中は、学生証を机上に提示すること。
- ③ 試験中は、筆記用具のほか許可された物以外、机上に置かないこと。
- ④ 試験中は、スマートフォン・携帯電話・ウェアラブル端末等の電源を切り、使用しないこと。
- ⑤ 試験中は、私語、物の貸し借りをしないこと。
- ⑥ 試験中は、退室まで許可なく座席を離れないこと。
- ⑦ 不正行為又はこれに紛らわしい行為をしないこと。

(3) 不正行為

試験における不正行為とは、次に該当する行為を指します。不正行為を行った者は、当該学期に履修する全ての授業科目に係る成績評価を不合格とし、本学学則第47条の規定に基づき懲戒の対象とします。

- ① 試験監督者の指示に従わないこと。
- ② 試験の解答に必要な情報を他者から得ること、又は他者に与えること。
- ③ 物を利用し試験の解答に必要な情報を不正に得ること。
- ④ 他者に受験を代行させること、又は他者の受験を代行すること。
- ⑤ その他、明らかに公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をすること。

3. 4 成績

1) 成績評価

授業科目の成績は、試験等の成績のほか平常における成績等を総合的に判断し、次表に掲げる基準により評価します。

【成績評価基準】

評 価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
成績表示	S	A	B	C	D
判定結果	合 格				不合格

2) GPAによる成績評価

健康科学部では、各個人の成績をGPA（Grade Point Average）によって算出し、各科目の成績と併せて学期末の成績発表時に通知します。

GPAとは、成績評価（S、A、B、C、D）に基づいて評価した成績の科目数に、それぞれのGP（Grade Point）を掛けて合計したものを履修登録した科目数の合計で割って計算した1単位あたりのGP平均値（Average）を示します。

成績評価等に対応するGPは、次表のとおりとなります。

Ⅱ 健康科学部 [3. 履修の手引き]

【 G P 】

評 価	S	A	B	C	D
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

【 G P A 計算式 】

G P A は、次の計算式により算出し、計算値は、小数点以下第 2 位を四捨五入する。

$G P A = \frac{(\text{履修登録した科目数} \times \text{当該科目の G P}) \text{の合計}}{\text{履修登録した科目数の合計 (不合格科目を含む)}}$
--

3) 成績の通知

成績の通知は、学期終了後に学生本人および保護者に対して発送します。

健康科学部では、保護者とともに学生の学修支援を行っていくことが教育において有効な取り組みであると考え、教育的な配慮のもと保護者に対し学修状況（成績、出席状況等）を開示しています。なお、保護者への学修状況の開示にあたっては、入学時に提出していただいた「個人情報の取り扱いに関する同意書」に基づき開示しています。

4) 特待生制度

本学では、優秀な人材の育成と学業の奨励に寄与することを目的として、本学に在学する学業成績が特に優れた学生を特待生として選定し、一定額の奨学金を支給しています。

(1) 選考基準

在学中の学業成績優秀者で、他の学生の模範となる者のうち、各学部各学科から推薦された者。

(2) 対象学年

2 年次、3 年次及び 4 年次